

スペシャルトーク

舞台芸術の存在意義

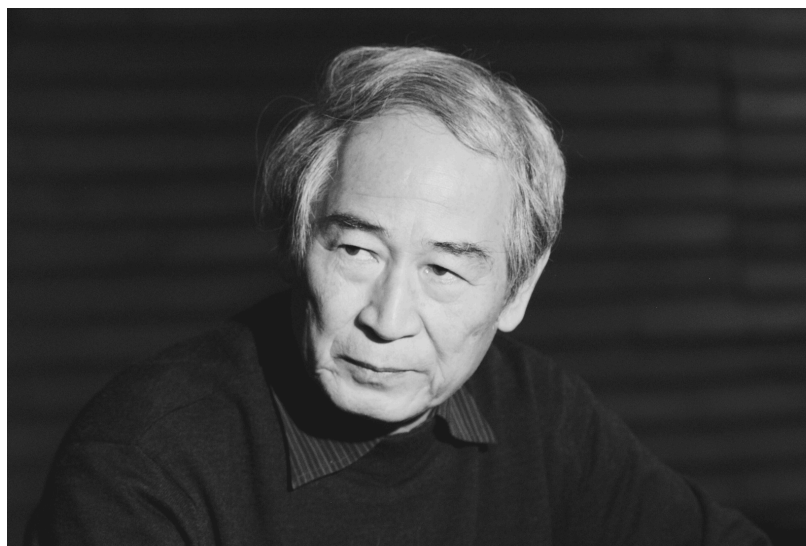
SPAC-静岡県舞台芸術センターは、2025年に財団設立30年を迎えました。創設期に公共劇場の理念を提示した初代芸術総監督・鈴木忠志さんを迎え、舞台芸術の存在意義と可能性をあらためて考えます。劇場は社会に何をもちたらしめるのか、そして行政・市民・劇場の関係はどうあるべきか、未来をともに創造する対話の場です。多くの方のご参加をお待ちしております。

と可能性

公共劇場の課題

鈴木忠志

Suzuki Company of Toga (SCOT) 主宰



1939年静岡県清水市生まれ。1966年劇団を創立。1976年富山県利賀村に本拠地を移し、合掌造りの民家を劇場に改造して活動。1982年より日本で最初の世界演劇祭を開催。1974年、岩波ホール芸術監督、1988年、水戸芸術館芸術総監督を経て、1995年に静岡県舞台芸術センター芸術総監督に就任（2007年、退任）。日中韓三カ国共同の演劇祭であるBeSeTo演劇祭の創設者であり、また、演劇人の国際組織シアター・オリムピックスの委員の一人でもある。公益財団法人利賀文化会議理事長。

聞き手

大久保満男

SPAC-静岡県舞台芸術センター評議員



1942年静岡県清水市生まれ。1967年静岡市に歯科医院開業。2000年静岡県歯科医師会会長を経て2006年に日本歯科医師会会長に就任。静岡県舞台芸術センター、静岡県立美術館、静岡音楽館AOIの設立に建設準備委員として関わり、公共施設の理念や運営を提言する。SPACについては、設立時から理事を務め、2017年から現在まで評議員。

2026
1/17 (土)
15:00-17:00

会場 静岡芸術劇場 (グランシップ内)

入場無料／要予約

*右のQRコードより
ご予約ください



主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター
お問い合わせ：SPACチケットセンター
TEL: 054-202-3399
〔受付時間10:00～18:00 | 休業日12/25・
年末年始12/29-1/4を除く〕

SPAC
SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER
芸術総監督 宮城聡
スパック = 静岡県舞台芸術センター